

おてんま

もっと下仁田と
つながる小さな本

特集：ロックな下仁田

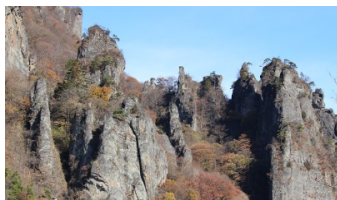
vol.2



妙義山



下仁田町といえば、下仁田ねぎ、こんにゃく、そして山！下仁田町の山は日本の中でもちょっと変わった見た目や成り立ちの山が多く、たくさんの観光客でにぎわいます。最初に紹介するのは、ごつごつした岩肌が特徴の「妙義山」。下仁田の山の中でも特に人気な山。登山道の途中には巨大な岩石の柱や穴が開いて門の形になっているものなど、不思議な形の岩石がまるで中国の秘境のような景色をつくっています。登山道は片道40分程度で、やや難しい場所もありますが迂回コースもあるので初心者でも安心して登ることができます。下仁田町にお越しの際はぜひ「ロック（岩）な下仁田」を楽しんでくださいね。



青岩公園



青い石畳が特徴の「青岩公園」

石畳に座ってまわりの山々を眺めるもよし、下仁田駅周辺からも徒歩5分圏内なので、下仁田グルメを堪能したあとの散歩コースとしてもよし。川の流れを眺めながら、田舎の風景を体感するのも楽しみ方のひとつ。



荒船山

平らな山頂が特徴の「荒船山」

山々を眺めていると、ひときわ不思議な形が目にとまる。荒波に浮かぶ軍艦のようにみえることが名前の由来。艫岩（ともいわ）からはきれいな景色を眺めることができる。ただし、絶壁なので、足元には特に注意が必要。登山は苦手という人も、車窓から荒船山をみながらドライブを楽しむこともできます。車中の会話もはずむかも！

check!!

町ホームページ

登山情報 →



check!!

商工観光課
Facebook

観光情報 →



ふるさと人

Mandy Brixey さん

インディペンデンス（ミズーリ州）出身

ALT（外国語指導助手）として、2016年から下仁田町の保育園・小学校・中学校で英語を教えている

田舎のよさを感じる場所

「田舎」という言葉に、どんなイメージをお持ちですか？

私は2016年までアメリカの都会に住んでいた
ので、ALTとして下仁田町に行く、と聞いた
とき驚きました。「1人になってしまう」と
不安な気持ちにもなりました。

「1人になってしまう」そんなことはありませんでした。色々な人に出会って、たくさんの友達ができたから。それに、どこへ行っても学校の生徒や知っている人がいつも挨拶をしてくれました。私のふるさとミズーリとは違います。ミズーリの人口は下仁田町よりもっともっと多いので、人と人がこんなにも近い関係を保つことが難しい。だから、下仁田町はとても特別なんです。名古屋で暮らしていたとき、まちの人と挨拶することはなかったの、田舎の良さを感じました。

便利な場所はないかもしれない。 でも、ないからこそ感謝できる ことがある。

下仁田町には、映画館やモールはありません。でも、便利な場所がない、ということに感謝しています。ないからこそ、仕事やコンビニなどで色々な人に出会えて、毎日、話を

して、まちの人と関係を築きました。この3年間で、アメリカにいた頃とは違う人生を送りました。たくさんの友達をつくったり、日本語を勉強したり、どれもチャレンジでした。

すきな風景がある

このまちで暮らすなかで、ひとつの大切な思い出は“帰り道”。吉崎という地域に住んでいたとき、学校からのいつもの帰り道、山の景色と橋を越して、太陽が映る川を見ました。

下仁田町は、思い出の場所、私にとって帰る場所です。
Shimonita is always a place I can return to, a place of memories.

とても綺麗でした。運転免許がまだないときは、どこへでも自転車ででかけたり、歩いて出かけたりしました。自然がいっぱいで、犬と一緒に散歩をしている人たちにも出会い、「本当に綺麗なまち」だと感じました。

本当の家族のような関係

朝早く下仁田駅に行くとき、まちなかのお店はまだ開店していません。でも、お店の人が開店準備を一生懸命している姿をよく見

かけました。そして、いつもたくさんの人が私に「おはよう」と声をかけてくれました。本当の家族のような関係でした。下仁田町は、思い出の場所、私の帰る場所です。下仁田町の思い出は、いつまでも消えません。山のよう、いつまでもあり続けます。

My heart is so full with love
for this town.

いこい処しもんた

田駅いこい処しもんたは、下仁にはソファとテーブルがある。中買の交流の場として利用できる。月、写真展や絵画展、書道作品展が開かれ、交流の場だけではなく展示会を通じた地域活性化の拠点でもある。

もともとこの場所では、ご夫婦が小売店を営んでいた。シャッターが閉まるのは町の中が暗くなる。暗くならないように人が寄れる場所にしたい。場所。諏訪神社や青岩公園などにも近くにあり、まちを訪れた人に、ぜひ立ち寄ってほしい、人とまちがつながる場所だ。

人とまちが つながる場所



営んでいた小売店を閉じたのをきっかけに、店舗を町の人のために解放した小野瀬さん「お年寄りや若い人が気軽に寄れる場所にしたい」と楽しそうに話す



毎週火曜日には、20名ほどのシニアが集まり健康体操やお茶会を楽しんでいる



休館日：水曜、日曜

開館時間：10：00～16：00



農業見習いとして、
十ヶ月が経ち、
僕が感じた
下仁田ぐらしを
みなさんに
ご紹介します。

農業がやりたくて、
東京から下仁田へ
移住しました。自然や
幼い頃から好きで、
生き物が好きな
東京で感じた
なにか豊かな
生活に日々感動
しています。



農業担当 篠原 司



地域おこし協力隊

しのはらくんのしもんた日記



マルチングフィルム張り

研修先の農家さんは、右も左もわからない自分に畑を用意してくれ、トラクターで整地をし、作物を育てる方法を丁寧に教えてくださいました。

「僕の畑」プロジェクト、スタート！！

下仁田の自然の中で、スクスク育った野菜たち

畑にはさまざまな来客（虫やけもの）があります。東京のスーパーには傷一つない野菜がキレイに並んでいましたが、自然からの来訪者が我先にかじるような野菜を人も食べるべきだと自分は思っています。



やっぱり、下仁田ねぎ

下仁田町では夏に「ねぎの植え替え」という作業をします。昨年の夏は日中の気温が39℃にもなる日がありました。自分も何度か意識がもうろうとなりましたが、「美味しいねぎをつくるため！」と精をだしています。

check!!

下仁田町地域おこし協力隊活動日記



Facebookで
日々の活動を
発信中！

下仁田町には人が“いる”

応援してくれる人がいる

まちを好きな人がいる

まちのことに関わってくれる人がいる

GUNMA SHIMONITA



ふるさとと人がつながる場として編集部を立ち上げ、この「おてんま」をつくりました。

「おてんま」とは群馬県の一部で使われている方言。『みんなのためになることをみんなでする』という意味で、下仁田町でも使われています。

下仁田町は人口約7,400人の小さな町です。高校卒業後、まちを離れて新しい世界で学び、働き、活躍している人がいることはとても素敵なことです。でも、ふるさとがあること・待っている人がいることをいつまでも忘れないでほしい、そんな願いを込めてこの小さな本をお届けします。

そして、下仁田町を応援くださる全国のみなさん、あたたかいご支援をありがとうございます。みなさんの応援が、まちを、ひとを元気にします。下仁田町は、いつまでもあなたのもうひとつのふるさとでありたいです。



表紙のはなし

毎日あたりまえのようにある町の風景も、そこに人がいるだけでいつもと違った風景になる。人が集い、想いをはせるとその場所のよさが見えてくる。「ちょっと行ってみたくなる、そんなまちになったらいいよね」そう想い、シャッターをきる。青岩公園から眺める夕焼け、こんなにもきれいだったのかと感じながら。

発行月 2019年3月

編集 おてんま編集部 & まちの人

発行／問合せ 下仁田町役場 地域創生課（4月から企画課） 地域振興係
群馬県甘楽郡下仁田町大字下仁田682

Tel 0274-64-8809

Facebook



ふるさとSHIMONITA_official